

駿河（するが）なる

駿河にある

宇津（うつ）の山辺（やまべ）の

宇津の山に来て、

うつつにも

「うつつ」（現実）でも

夢にも人に

夢でもあなたに

あわぬなりけり

会えなくなつてしまつた。

問一

「うつつ」という言葉の印象を強めるために、その前に置かれているフレーズ（「駿河なる宇津の山辺の」）を何と呼ぶか。

ア枕詞。ある言葉の前に置くことが伝統的に決まつていた言葉（例「奈良」の前に置く枕詞は「あおによし」）。原則五音。

イ序詞。あとに来る言葉の印象を強めるために置かれるフレーズ。どういうフレーズにするかは歌人の自由。原則七音以上。

訳17

駿河（するが）なる

駿河にある

宇津（うつ）の山辺（やまべ）の

宇津の山に来て、

うつつにも

「うつつ」（現実）でも

夢にも人に

夢でもあなたに

あわぬなりけり

会えなくなつてしまつた。

問二

「夢でもあなたに会えなく
なつてしまつた」とあるが、
当時はこれはどう解釈したか。

ア男の、「あなた」に対する思いが
薄れてしまつた。

イ「あなた」の、男に対する思いが
薄れてしまつた。

このは空白ページです